

【第六回】

諸橋轍次記念

漢字文化理解力検定

二〇三三年十月一日

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なものと大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

## 【問題一】 (44点)

次に掲げるのは、「朝日新聞」昭和三七年二月一五・一六日号に掲載された諸橋轍次の「漢学のすすめ」という文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(問題作成にあたって、一部、文字遣いや文章を改めたところがある。)

漢字漢語の問題について時々意見を求められるが、私はあまり①キウクツキウクツに考えてはいない。文部省が普通教育において約二千の漢字を指定したのは大体においてよろしいと思う。ただ文字の要求は時勢の②スイイスイイによって変化するから、審議会などで絶えず③シユシヤシユシヤするがよからう。

また地方によっても職業によっても特殊の必要はあるものだから、それはそれとして余分に教えるがよい。農村に④クク・鎌という字が、漁村に鮭・⑤鱒鱒という字が必要なら、これを別に教えるても格別負担になるものではない。また官庁や会社の文書、新聞・雑誌の記事などは、大体⑥当用漢字当用漢字内で間に合やすようにつとめるのはよいが、内閣告示などで強制すべきものではない。法律語でも学術語でも一般に行われているよい語ならば、当用漢字にないからといって変える要はない。⑦「喬木・灌木」を「□木・□木」に変えたとか聞いたが愚かなことだ。

それでは無制限になって困るだろうというかも知れぬが、自由に任せたからといってさほどふえるものではない。普通の人の覚えなければならぬ文字は精々二千位にとどまるだろう。文化国家の国民ならこの程度の負担には堪えられるはずだ。

⑧略字略字を授けることも差しかえない。ただそれは許容字とするがよい。学という字を授けたからといって、日々目にうつる學という字がウソ字だとはいわれない。根本問題として漢字は廃される、また廃さなければならぬとの議論もあるが、とんでもないことだ。四千年の歴史によって築き上げられた漢字文化が、そうやすやすと亡なぼされてたまったものでない。魯迅ルンジンは漢字が亡び

なければ中国は亡びるといったそうだが、その憂国の真情には同情するが、実は漢字の亡びないかぎり中国は亡びないというのがむしろ正しいのだ。

④漢字は我が国民の持った最初の文字であり、今なお行われているから、国字だと見るのが正しい。この漢字を用いて作られた言葉は無数にある。漢字でつづらられているために漢語と呼んではいるが、もちろん国語だ。また⑤本来中国で作られた漢語でも、それが渡来の当初からこれに代わるべき他の適語がなくて今日に生きているとせば、それも立派な国語だ。門でも扉でも牡丹でも芍薬でも今国語となつていいるのと同様だ。これから作るものはなるべく漢字を用いないようにというならそれはもつともだが、それも無理してはいけない。

元来意味のある漢字は成語を作りやすく、また味のあるものが出来やすい。⑥明治以来の新造語の七、八割までがみな漢字から成つていいるという過去の事実は、恐らくは将来をもトするに足るだろう。その趨勢を無理すれば必ずや造語の困難と貧弱に陥ると思う。言葉はやさしく意味さえ通ずればそれでよいというものではない。正確ということのほか、豊富に雅醇であることが望ましい。

このように考えてくると、⑦この国語を表すのにローマ字や仮名にすることは、二義的になることであり、且つ同音異義その他いろいろの不便がある。やはり漢字を用いるのが日本人の宿命だと早くあきらめる方がよらしい。

私の主張は大体右の通りだが、この程度の議論なら聞かなくてもよろしいという人があるかも知れぬ。実はその通りだ。ただそれは私の議論だけの事ではない。今まで世に発表せられた国語問題（仮名遣いの問題なども含む）に関する賛否両論はもはや大体出そろった感じがする。そこでこの辺で従来の意見をいかに処理するかについて私案の一つを左に述べよう。

それは国語審議会でもよし、また新たに出来た国語問題協議会でもよいから、従来発表せられた有力な議論を整理し、精々十項目前後にしぼることを第一の仕事とする。

それが出来たら今度これを特定の研究所へまわして⑧学術的に厳密に⑨セイサせしめ、その論の正否・⑩テキヒ、実行の可能・不可能を判断することを第二の仕事とする。それには大学の研究室を利用することも一案だが、せつかく国立の国語研究所があつ

て相当の成績を挙げているのだから、それを拡充し整備する方が手っ取り早いと思う。調査に①幾年かかるか知れないが、①たとえ十年、十五年かかるとしても、明治以来今日まで同じことを幾度も繰り返して来た過去の愚かさにくらべれば何でもない。

かくて得た結果は公表して国民の判断を待つがよい。強制は⑧キンモツだ。これを繰り返している中、自然に正しい美しい国語は生まれるだろう。気長な話だ、割り切れない論だというかも知れないが、元来国語問題などは急ぐべきものでもなく、また狭い考えで簡単に割り切るべきものでもないのだ。〈中略〉

漢学は元来大人の学だ。加藤清正が「以て六尺の孤を託す可し」という論語の一句に感じて終生の清節を全うしたとか、直江兼続が「滅国を興し絶世を継ぐ」の一句に感じて関が原の去就を決したというような例はいくらでもある。流石に賢哲の垂訓は人世各般の場合に適切なものがある。

仮に政界⑫与野党の方々が一堂に会して謙虚にこの訓えに耳を傾けたら、火を吐いた壇上の議論も微苦笑の中に融けさせることも多かるう。しかも古典は読む人に学があればあるほど、経験があればあるほど味が深くなつて来る。しよせん読むというよりはむしろ①自己の姿を写す鏡と見るべきものだ。そして師弟同行、聖賢の教えに導かれて行くものだ。成人の修養として趣味として最も恰好のものだと思う。〈後略〉

(『諸橋轍次著作集第十卷』大修館書店、一九七七年による)

\*1 文部省 現在の文部科学省。

\*2 魯迅 中国近代文学の出発点を築いた作家。主な作品に「阿Q正伝」「故郷」などがある。

\*3 加藤清正 安土桃山時代の武将。豊臣秀吉に仕え、後、関ヶ原の戦いでは徳川家康に味方した。

\*4 直江兼続 安土桃山時代の武将。上杉景勝に仕えた。

問1 傍線部①～⑧について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで書きなさい。(各2点)

問2 波線部a「当用漢字」は、一九四六年(昭和二十一年)に政府が公布した一八五〇字の漢字をいう。これに代わるものとして

一九八一年(昭和五六年)に告示された漢字を何というか。漢字で正しく書きなさい。(2点)

問3 問2で答えた漢字は、どのような性格のものか。説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 学校教育において、中学校卒業までに習得しなければならない漢字の範囲。

イ 一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安。

ウ 個人の言語生活において、国が定めた逸脱が許されない厳格な基準。

エ 法令、公文書などの作成において、順守すべき罰則をも伴った規則。

問4 問2で答えた漢字の中には、一般にはあまり使用されない字種も含まれているが、それは何か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 朕、イ 轍、ウ 鮎、エ 函

問5 波線部⑥「『喬木・灌木』を「□木・□木」に変えた」とあるが、「□木・□木」の二つの□に入る漢字の組み合わせとして、適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 巨・小、イ 草・花、ウ 高・低、エ 原・雑

問6 波線部⑦「略字」は、ここでは旧字体に対する新字体をいう。たとえば「藝」は、「当用漢字字体表」(一九四八年)で、その新字体「芸」が示された。「藝」と「芸」に関する説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 「藝」と「芸」は、もともとはまったく別の意味である。

イ 二字の意味は異なり、「藝術」と書くのは不適切である。

ウ 「藝」と「芸」の意味は同じだが、部首が異なる。

エ 「藝」と「芸」の意味は共通で、音読みが異なる。

問7 波線部④「漢字は我が国民の持った最初の文字であり、」とあるが、漢字渡来後の日本での漢字の事情に関する説明として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア もともと日本には神代文字というものがあつたが、漢字渡来後は次第に淘汰され、誰も使わなくなつた。

イ 漢字の草書体をさらに崩して片仮名が作られ、古くは女性の書く文字として「女手」と呼ばれた。

ウ 平仮名は片仮名の一部を取つて作られたもので、当初は漢文や経文に訓点を加えるために用いられた。

エ 漢字渡来の当初、漢字は本来の意味を離れて音を表すためにも用いられ、『万葉集』にはその例が多く見られる。

問8 波線部⑤「本来中国で作られた漢語でも、それが渡来の当初からこれに代わるべき他の適語がなくて今日に生きているとせば、それも立派な国語だ。」とあるが、問2で答えた漢字の中で、音読み・訓読みが併記されているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 庠      イ 易      ウ 絵      エ 益

問9 波線部⑥「明治以来の新造語の七、八割までがみな漢字から成っている」とあるが、わが国の「新造語」としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 哲学      イ 民権      ウ 革命      エ 理科

問10 波線部⑧「この国語を表すのにローマ字や仮名にする」とあるが、第二次世界大戦後、日本語を廃止し、フランス語を採用してどうかと主張した小説家がいる。その人物を次の中から一人選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 志賀直哉      イ 太宰治      ウ 谷崎潤一郎      エ 三島由紀夫

問11 波線部⑧「学術的」の「術」について、『大漢和辞典』で同じ部首に分類されている漢字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 径      イ 役      ウ 行      エ 往

問12 波線部⑩「幾年」の「幾」は、『大漢和辞典』ではどの部首に分類されているか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 弋      イ 戈      ウ 戍      エ 幺

問13 波線部⑪「たとえ」は、「もし、かりに」の意味の「たとい」が転じたものである。これに漢字を当てる場合、適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 例      イ 比      ウ 譬喩      エ 仮令

問14 波線部⑫「与野党」と同じ意味で「野」が使われている熟語は次のうちどれか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 荒野      イ 在野      ウ 粗野      エ 分野

問15 波線部⑬「自己の姿を写す鏡」とあるが、中国の古典『莊子』に次のような記述がある。諸橋轍次はこれに感銘を受けて自分の号にしたが、それは何か。漢字で正確に書きなさい。(2点)

仲尼(ちゆうじ)〔孔子〕曰はく、「人は流水に鑑(かん)みる莫(な)くして、止水に鑑(かん)みる。」(莊子、徳充符)

【問題Ⅱ】（20点）

漢字や漢語、漢字文化に関するあとの問いに答えなさい。

問1 次の①～③には、使い方が正しくない漢字がそれぞれ一つずつ含まれている。例にならって正しい漢字に改めなさい。（各2点）

〔例〕俳句の季語を、才時記を使って調べる。 才 ↓ 歳

①予想がずばりと当たり、改心の笑みを浮かべる。

②私の姉は市役所に務めている。

③一〇年以上探し続けて、遂に埋蔵金を見つける。

問2 次の①～③に当てはまるものを選択肢の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。（各2点）

①「すいぜん」と読むべき「垂涎」を「すいえん」と読んでしまうように、オーソドックスな音読みから外れた音読みをするものがあ

ア 寂寞      イ 牧場      ウ 残滓      エ 羽音

②「重箱」を「じゅうばこ」と読むように、一文字目を音読みで読み、二文字目を訓読みで読む読み方をするもの

ア 駅前      イ 滝行      ウ 軒下      エ 席順

③「昨日」を「きのう」と読むように、漢字二文字をまとめて一つのことばとして読み、一文字ずつにはけっして分解できない読み方をするものがあ

ア 蝶番      イ 常磐      ウ 漆喰      エ 陽炎



問3 次のア～エの中から誤りを含むものを一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 「後生しうせい畏るべし」とは、若者の将来は測り知れないほどの可能性に満ちていることを意味する、『論語』のことばである。
- イ 「千慮の一失」は、いくら知恵を絞っても思いがけない失敗をすることがあることを表す、『史記』のことばである。
- ウ 「柔弱は剛強に勝つ」は、弱々しくても柔軟性があるものの方が、強くても硬直しているものよりも優れていることを述べた、『孫子』のことばである。

エ 「棺を蓋おほいて事定ことまる」は、人物の評判は生きている間は一定しないことをうたった、杜甫の詩の一節である。

問4 次に示す四字熟語のうち、仏教との関係が最も薄い四字熟語はどれか。一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 諸行無常      イ 唯我独尊      ウ 自業自得      エ 優勝劣敗

問5 次のア～エのできごとを、起こった時代順に並べ直し、記号で答えなさい。(完答4点)

- ア 高級官僚の採用試験、科擧が始まる。
- イ 仏教が中国に伝わる。
- ウ 秦しんが中国全土を統一し、漢字の書体も統一される。
- エ 代表的な印刷書体、明朝体が生まれる。

【問題Ⅲ】(15点)

国字(日本で作られた漢字)・国訓(日本で作られた字義)について、あとの問いに答えなさい。

問1 「辻」という字は、和語の動詞を書き表すために日本で作られ、使われてきた漢字、つまり国字である。この字の読み方(送り仮名を含む)を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア ながれる      イ すべる      ウ みちる      エ おしかける

問2 「樽」という字があり、それには「罇」と同じ読み方があるが、それは何か。カタカナで書きなさい。(3点)

問3 「億」や「兆」より大きい数の単位に「秭」(じよ)がある。中国では別の字体で、音読みも異なるが、それは次のどれか。

次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 預<sup>よ</sup>      イ 泝<sup>そ</sup>      ウ 秭<sup>し</sup>      エ 増<sup>ぞう</sup>

問4 次の三字の中には、国訓(日本製の字義)をもつ字が一つ含まれている。

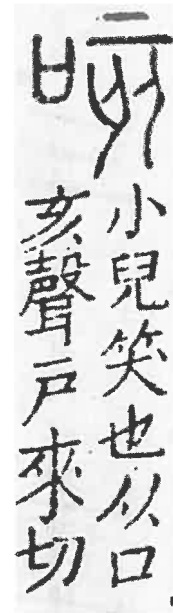
罵      諦      待

(1) その字を選び、その訓読みをひらがなで書きなさい。(3点)

(2) その字の国訓を含む熟語(もとは仏教用語)を書きなさい。(3点)

【問題Ⅳ】(15点)

次の図は宋・徐鉉じよげんが校定した『説文解字』せつもんかいじの一部である。これを見て、あとの問いに答えなさい。



問1 『説文解字』は部(部首)によって字を配列した初めての字典である。その部(部首)の数はいくつか。適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 五四〇      イ 一九三      ウ 二〇六      エ 一〇六      オ 二二四

問2 図の冒頭に掲げられている見出し字の書体名を漢字二文字で書きなさい。(3点)

問3 「咳」字の成り立ちについて、文中では「从(従)口亥聲(声)」と説明されている。この成り立ちは、六書のうちのいずれに相当するか。適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 象形      イ 指事      ウ 会意      エ 形声      オ 転注      カ 仮借

問4 文中で「咳」字の発音が示されている部分を三文字で抜き出さなさい。(3点)

問5 文中で用いられている発音注記法を何というか。適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 直音法      イ 反切法      ウ 読若法      エ 系聯法      オ 声訓法

【問題Ⅴ】（6点）

諸橋轍次の生涯や業績について、あとの問いに答えなさい。

問1 次の写真は、諸橋轍次が敬慕してやまなかつた東京高等師範学校校長のものである。講道館柔道の創設者として有名なこの人物の名前を漢字で書きなさい。（3点）



問2 諸橋轍次編纂の『大漢和辞典』の刊行は、世界的な偉業と称賛された。次の文章の空欄①～③に入る適切な数字を【】内の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。（3点）

三十年余の歳月を費やした『大漢和辞典』は、昭和（①）年に戦後再刊第一巻を発刊し、昭和（②）年に全（③）巻の刊行をみました。

その後、修訂を重ね、語彙索引、補巻を加えて現在に至っています。

【ア 七 イ 一三 ウ 一五 エ 二五 オ 三〇 カ 三五 キ 四〇】